



普通の実の2倍近くに育ったウメを持つ山崎さん

これはウメ？

山崎さんは「枝に隠れ、収穫の際には気が付かず、取り残していたものだと思います。普通なら重みで落ちるところ、枝に支えられて大きくなったのでは」と話していました。家族や近所の方にも見せてから、そのまま食べてみるということでした。

山崎茂幸さん（石井垣・78歳）所有のウメの木に、普通のものの約2倍もある直径5センチのウメの実がありました。枝にのりかかるように大きく育った実に山崎さんが気が付いたのは、7月2日のこと。他の実を収穫して約2週間後のことでした。

夏の花を きれいに咲かそう

7月5日（木）に名和公民館主催事業「花づくり講座」の受講生が、しまね花の郷（出雲市）と荒神谷遺跡公園（斐川町）へ体験研修にでかけました。
当日は晴天に恵まれ「しまね花の郷」では、夏の花の寄せ植えを実習し、寄せ植えのポイント・管理の仕方などを学び、今後の活動の参考になりました。
寄せ植えし持ち帰った花が、1か月後きれいに咲くのが楽しみです。公民館に、置いてありますのでご覧ください。



「しまね花の郷」で寄せ植えの実習中



あ、そこにいる！つかまえた！



カブトエビ 発見！

体長2～3センチのカブトエビ。頭はカブトガニに似ています

蒸し暑い曇り空の6月28日（木）、逢坂保育所の3歳以上の園児41人が、カブトエビ捕りに挑戦しました。カブトエビは、水田に住む小さな甲殻類。水田の底の泥をかき混ぜ、雑草の成長を防ぐため「田の草取り虫」といわれています。
園児たちは、保育所から25分ほど歩き、野間護さんの水田（殿河内）に着くと、さっそくカブトエビを発見。ゆらゆらと泳ぐカブトエビを片手でつまみあげ「簡単にとれた。手の上に乗せるとくすぐったい」と一人で、6匹つかまえた子も。
バケツいっぱいになったカブトエビは、園児が持ち帰り飼育することとした。

園児たちは、保育所から25分ほど歩き、野間護さんの水田（殿河内）に着くと、さっそくカブトエビを発見。ゆらゆらと泳ぐカブトエビを片手でつまみあげ「簡単にとれた。手の上に乗せるとくすぐったい」と一人で、6匹つかまえた子も。
バケツいっぱいになったカブトエビは、園児が持ち帰り飼育することとした。